

授業の具体的展開例

比べることによる気付きから

T: チョウの学習を振り返ってみましょう。チョウの体のつくりはどうでしたか。
C: 羽が4枚あったし触覚が2本ありました。
C: 口がストローのようになっていたよ。
C: 体が頭と胸と腹に分かれています。
C: 足が6本あります。
T: 足はどこにありましたか?
C: 胸だったかなあ。
T: そうですね。チョウはこのような体のつくりをしていました。この中で「体が頭、胸、腹の3つに分かれています、胸に6本の足がある」生き物を「昆虫」といいます。だからチョウは昆虫です。体のつくりから昆虫を他の生き物と分けることができます。

—観察の視点の確認—

T: では、アリは昆虫かどうか調べたいと思います。どこを観察すればよいですか。
C: 体のつくりが「頭」「胸」「腹」に分かれていますかどうかを見たらいいと思います。
C: 足が6本で胸から出ているかどうかを見たらいいと思います。
T: 他にはないですか?では、観察して確かめてみましょう。気付いたことやそう考えた理由をワークシートに書きましょう。

—観察—

C: 足は6本だね。胸から出ているね。
C: 体は頭、胸、腹に分かれていますね。
C: アリは昆虫だね。

—全体で—

T: アリは、昆虫ですか?ちがいますか?
C: アリは昆虫だと思います。理由は、体のつくりが「頭」「胸」「腹」に分かれていますのと足が6本で胸から出ているからです。

—終わりに—

T: 今日の学習でわかったことや感想を發表しましょう。
C: 今日の勉強でチョウとアリは昆虫だということが分かりました。でも、わたしは、他の生き物がどうなっているか調べてみたいと思いました。
T: 例えば、どんな生き物ですか?
C: たぶんカブトムシやクワガタも昆虫だと思います。
C: ぼくもカマキリやバッタも調べてみたいです。
T: 次の時間の勉強の中身は決まりましたね。では、次の時間にみんなで調べてみましょう。

板書例

アリはこん虫ですか?ちがいますか?

チョウはこん虫です。体が「頭」「むね」「はら」に分かれています、むねには6本の足があります。



「活用」の力を育てる評価の工夫

活用する力を育てる上でのポイント

- ◆ これまでの学習と関連付けながら、昆虫の「分類の基準」を示し、それに当てはまるかどうかを確かめる学習である。その基準を知識として活用し、学習できるかがポイントとなる。
- ◆ 本時は、昆虫の分類基準をもとにアリだけをじっくり観察することにした。この時間で観察の視点を明確にし、児童が自ら確かめることができるようにする。そこから主体的にほかの昆虫を調べようとする意欲を持てるかどうかポイントとなる。

「活用」の力を育てる評価の視点

本時では、提示された概念を活用して観察の視点を確かめ、昆虫を分類する活動を通して、分類基準を理解し、さらに次の課題に気付き自然な形で主体的に学習しようとする態度を育てたい。そのための視点として、

- ① 提示された概念を適切に活用し、昆虫を分類できているか。
 - ・アリは昆虫かどうかを確かめさせる。
 - ・観察したことを図と言葉でかき、昆虫か否か判断した理由も書かせる。
- ② 提示された概念で昆虫が分類できることから次の課題を発見し、追究しようとしているか。
 - ・他の昆虫を主体的に調べさせる。
 - ・昆虫とそうでない生き物を分類させる。

児童のノート例

今日のべんきょうで、わかったこと

- ①こん虫の体は
 - ・「頭」「むね」「はら」に分かれています
 - ・むねに6本の足がある。
- ②チョウとアリは、「頭」「むね」「はら」に分かれていますことと、足が6本でむねから出ていることからこん虫といえる。



[学習をおえて]

わたしは、今日の勉強の中でアリがこん虫であることがわかった。でもアリだけしか調べていないので、もっとほかの生き物も調べてみたい。こん虫図かんもあるんで、もっとたくさんのかん虫がいるはず。今日学んだ「こん虫の体のつくり」をあてはめて、調べてみたい。わたしの家にはカブトムシとクワガタがいるので、さっそく調べてみようと思う。